

平成30年度自己評価結果

あさま幼稚園

1. 本園の教育目標

園児一人ひとりにゆきとどいた保育をおこない「明朗闊達で感性豊かな子ども」を育てること

2. 30年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・子どもが自分で考え、自信を持って動ける子にするための環境設定や言葉がけをする
- ・各種の研修に参加したり園内研修を行うことにより、さらなる教員の質の向上を目指す

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
幼稚園の教育目標と重点目標の周知	B	園の教育目標を園だよりにして載せたり、保護者集会などで園長が説明をし、周知をはかる。
危機管理体制の整備	B	危機管理マニュアルを作成して年に数回、火災・地震・不審者訓練を行っている。
家庭、地域、関係機関への情報発信	B	園だより学級だより、ホームページにて園の様子を伝えている。
教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解	B	毎年指導計画を見直し、子どもの実態に即した内容にするよう努めている。
発達段階に則した適切な幼児理解・環境	B	各クラスで月・週案を作成、一日の終わりに一人ひとりの保育日誌に記入、子どもの実態を把握し、次に繋げている。
幼稚園と小学校との円滑な連携	B	小学校の先生方の保育参観、近隣の小学校との交流会を通して、幼稚園の様子、小学校の教育内容について理解を深める。
教員の資質向上、研究・研修の充実	B	各種研修や研究会に参加し学んだことを資料にまとめ、職員会等において提供し、全職員が今後の保育に生かしている。月1回の園内研修においてさらなる充実した保育を目指している。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	たて割り保育を取り入れ、自ら行動し、考え、動けることが出来るように心がけている。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
家庭との連携	保護者との連絡を密に取り、子ども一人ひとりに寄り添う保育に努める。
健康な心と体	自然との関わりを重点に置き、園庭や散歩などで心と体を十分に働かせる。

6. 31年度、重点的に取り組む目標・計画

子どもが自分で考え、自信を持って動ける子にするための環境設定や関わりをする。

7. 学校関係者の評価

子どもに寄り添った保育をしている。

教育目標に即して先生方が一人ひとりの園児に行き届いた指導がされていると思う。

こども達の健全な成長を見守り、導き、育てていく事を引き続き目指して行って欲しい。
今後の取組みについても、子ども達の人間力を高められるような関わり方をお願いしたい。

3.4の評価結果基準

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組みが不十分である